

# 第44期 報告書

平成22年4月1日～平成23年3月31日



(ホテル立山)

立山貫光ターミナル株式会社

## 2 2 年度事業概況 (平成22年4月1日~平成23年3月31日)

当期の立山黒部アルペンルートは、前年同様、4月10日に、富山側は立山~弥陀ヶ原間、大町側は信濃大町~室堂間が営業を再開し、4月17日には、立山~信濃大町間が全線営業再開となり、11月30日まで営業いたしました。

当期の営業の経過は、ホテル立山では、4、5月は企画団体が好調で前年を上回る成績でスタートしましたが、5月31日~6月22日の間、黒部ケーブルカーが制御機器の支障により運休した影響を受け、6月の宿泊人員が前年の半分まで落ち込み、7月もその影響が後を引き、前年を大きく下回る結果となりました。8月はほぼ前年並みに戻し、9月は前年のシルバーウィークの反動で平年並みに終わり、10月、11月は順調に推移して営業を終了いたしました。その結果、シーズンを通して宿泊人員は、32,417人(対前年95%)となりました。また食堂収入は、訪日外国人団体の利用が回復したことなどにより、対前年109%ととなり、売店収入は対前年98%となりました。

弥陀ヶ原ホテルにつきましては、4、5月がやはり好調に推移しましたが、6月はケーブルカー運休により前年から半減し7月も不調に終わりました。8月は前年並みに回復し、9月はシルバーウィークの反動が見られましたが、10月、11月は地元を対象にした企画商品の販売もあり、ほぼ順調な結果となりました。その結果、シーズンを通して宿泊人員は、14,714人(対前年99%)となりました。

宇奈月国際ホテルにつきましては、4、5月はほぼ前年並みでスタートしたものの、6、7月はケーブルカー運休によりアルペンルート関連旅行商品が影響を受けたため大幅な落ち込みとなり、8~11月も、10月が昨年を上回ったほかは、低調に推移しました。12月以降は、地元客を対象とした誘客により、前年を上回る結果となりましたが、3月は震災の影響により減少いたしました。その結果、シーズンを通して宿泊人員は、28,238人(対前年94%)となりました。

この結果、当期の売上高は、ホテル立山宿泊収入6億68百万円(対前年94%)、弥陀ヶ原ホテル収入3億38百万円(対前年96%)、宇奈月国際ホテル収入5億34百万円(対前年90%)、室堂飲食及び物品販売収入9億67百万円(対前年102%)となり、これにビル賃貸収入1億73百万円(対前年99%)を加えた売上高合計は26億80百万円(対前年97%)となりました。さらに営業外収益12百万円を加えた収益合計は26億91百万円(対前年97%)となった次第であります。

次に営業費につきましては、人件費、物件費の圧縮など経営全般にわたる効率化に努めましたが、開業40周年に伴う室堂ターミナルの明粧化工事の修繕費等もあり、合計27億55百万円(対前年101%)となり、これに営業外費用1百万円を加えた費用合計は27億56百万円(対前年101%)となりました。

以上により、当期の経常損失は65百万円となり、これに特別損失、法人税等ならびに税効果会計による法人税等調整額を減じて、当期純損失は61百万円を計上することとなりました。

### ホテル立山宿泊営業成績表（平成22年度）

項 目	実 績	前年比%
営 業 日 数	235	100
宿 泊 人 員	32,417	95
一日平均宿泊者数	139	96
営 業 収 入	667,551	94
宿 泊 収 入	664,884	94
雑 収 入	2,666	117
一 日 平 均 収 入	2,840	94
客 室 数	85	100
延 使 用 客 室 数	13,897	97
客 室 回 転 率	70	97
宿 泊 定 員	265	100
宿 泊 効 率	52	95

（備考）営業期間(当期)：平成22年4月10日～平成22年11月30日(宿泊日数234日)

営業期間(前期)：平成21年4月10日～平成21年11月30日(宿泊日数234日)

### 弥陀ヶ原ホテル営業成績表（平成22年度）

項 目	実 績	前年比%
営 業 日 数	212	96
宿 泊 人 員	14,714	99
一日平均宿泊者数	70	104
営 業 収 入	337,772	96
宿 泊 収 入	278,034	99
雑 収 入	1,026	109
食 堂 収 入	26,323	91
売 店 収 入	32,387	82
一 日 平 均 収 入	1,593	100
客 室 数	52	100
延 使 用 客 室 数	6,451	100
客 室 回 転 率	59	104
宿 泊 定 員	176	100
宿 泊 効 率	40	104

（備考）営業期間(当期)：平成22年4月10日～平成22年11月7日(宿泊日数211日)

営業期間(前期)：平成21年4月10日～平成21年11月16日(宿泊日数220日)

### 室堂飲食及び物品販売業営業成績表（平成22年度）

項 目	実 績	前年比%
営 業 日 数	235	100
室 堂 到 達 人 員	788,414	99
営 業 収 入	967,329	102
食 堂 収 入	281,885	116
喫 茶 収 入	106,521	95
売 店 収 入	572,870	98
雑 収 入	6,052	90
一 日 平 均 収 入	4,116	102
営業収入/室堂到達人員	1,227	103

（備考）営業期間(当期)：平成22年4月10日～平成22年11月30日

営業期間(前期)：平成21年4月10日～平成21年11月30日

## 宇奈月国際ホテル営業成績表（平成22年度）

項 目	実 績	前年比%
営 業 日 数	日	365 100
宿 泊 人 員	人	28,238 94
一日平均宿泊者数	人	78 95
営 業 収 入	千円	534,064 90
宿 泊 収 入	千円	419,609 91
追加飲食収入	千円	36,233 87
施設利用収入	千円	10,362 89
日 帰 り 収 入	千円	20,664 91
売 店 収 入	千円	41,866 83
雑 収 入	千円	5,326 90
一日平均収入	千円	1,463 90
客 室 数	室	64 100
延使用客室数	室	10,897 95
客室回転率	%	47 95
宿 泊 定 員	人	304 100
宿 泊 効 率	%	25 94

（備考）営業期間(当期)：平成22年4月1日～平成23年3月31日

営業期間(前期)：平成21年4月1日～平成22年3月31日

## 財産および損益の状況の推移

区 分	第 4 1 期 (平成19年度)	第 4 2 期 (平成20年度)	第 4 3 期 (平成21年度)	第 4 4 期(当期) (平成22年度)
売 上 高 (千円)	2,107,070	2,251,497	2,772,207	2,679,582
当期純利益(損失) (千円)	16,303	42,720	32,797	60,930
1株当たり当期純利益(損失)	18円11銭	47円46銭	36円44銭	67円70銭
総 資 産 (千円)	1,988,587	1,859,388	1,978,696	1,913,541

# 平成23年度の取り組み

## 1 販売の強化

ホテル販売については、ホテル3館のそれぞれの立地、特長を踏まえ、旅行代理店との連携による販売の強化をはかることを基本に、インターネット販売の拡大、訪日外国人旅客の増加等にも対応した企画、商品造成等を進めて参ります。また、40周年記念商品の販売による集客増をはかって参ります。

また、ホテル立山、弥陀ヶ原においては、引き続き昼食団体の誘致に注力し、オプションメニューの充実や、ホテル、レストラン間の連携強化を進めて参ります。

なお、今般の震災の影響に対しましては、動向の進展に柔軟かつ迅速に対応することとし、国内外への的確な情報発信を行ってゆくと共に、時期と対象地を絞った効果的なセールス活動と広告宣伝を行う態勢をとって参ります。また、状況に応じた効率的な営業体制によりコスト管理を徹底して参ります。

## 2 顧客満足度の向上

ホテル3館の特長を活かしたサービスの充実を図るとともに、基本である接客や食事サービスの一層の向上を通じて、顧客満足度の向上を図り、リピーターの確保に努めてまいります。

また、クレームを含めたお客様の声を真摯に受け止め、提供サービスの改善に努力を続けてまいります。

## 3 宿泊・食品の安全確保

ホテル事業を営む当社にとりまして、安全の確保は当然のことであり、施設設備・食品の安全には今後とも万全を尽くしてまいります。近年、重大事故・偽り等の不祥事が相次いでいるところから、お客様の安全に対する関心が高く、会社も安全に対する社会的責任が厳しく問われております。

当社では、施設の日常点検と整備および食品の衛生管理と仕入食材の品質管理を徹底し、お客様に安心、信頼してご利用いただけるよう努めて参ります。

# 財務諸表

## 貸借対照表の要旨

(平成23年3月31日現在)

(単位:百万円)

科目	金額	科目	金額
<b>(資産の部)</b>		<b>(負債の部)</b>	
<b>流動資産</b>	<b>491</b>	<b>流動負債</b>	<b>238</b>
現金及び預金	389	支払手形	5
売掛金	5	買掛金	18
未収金	9	短期借入金	13
未収法人税等	20	未払金	135
商品	2	未払費用	9
貯蔵品	38	未払法人税等	3
前払金	3	預り金	2
繰延税金資産	21	賞与引当金	49
<b>固定資産</b>	<b>1,422</b>		
有形固定資産	1,093	<b>固定負債</b>	<b>379</b>
建物	615	退職給付引当金	366
建物附属設備	180	役員退職慰労引当金	8
構築物	96	環境対策引当金	4
機械及び装置	19		
車両及び運搬具	11	<b>負債合計</b>	<b>617</b>
器具及び備品	50	<b>(純資産の部)</b>	
土地	119	<b>株主資本</b>	<b>1,369</b>
無形固定資産	6	資本金	900
ソフトウェア	5	利益剰余金	469
電話等加入権	1	その他利益剰余金	469
投資その他の資産	322	繰越利益剰余金	469
投資有価証券	103		
関係会社株式	35	<b>評価・換算差額等</b>	<b>73</b>
繰延税金資産	152	その他有価証券評価差額金	73
その他	31	<b>純資産合計</b>	<b>1,295</b>
<b>資産合計</b>	<b>1,913</b>	<b>負債・純資産合計</b>	<b>1,913</b>

記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。また、消費税等の会計処理は、税抜方式によっております。

## 損益計算書の要旨

(平成22年4月1日～平成23年3月31日)

(単位:百万円)

科目	金額
売上高	2,679
売上原価	723
<b>売上総利益</b>	<b>1,956</b>
販売費及び一般管理費	2,032
<b>営業損失</b>	<b>75</b>
営業外収益	11
<b>経常損失</b>	<b>64</b>
税引前当期純損失	70
法人税 住民税及び事業税	1
法人税等調整額	10
<b>当期純損失</b>	<b>60</b>

## 株主資本等変動計算書

(平成22年4月1日から平成23年3月31日まで)

(単位:百万円)

	株主資本				株主資本 合計	評価・換算 差額等 その他 有価証券 評価差額金	純資産 合計
	資本金	利益剰余金		利益剰余金 合計			
		その他 利益剰余金	繰越利益剰余金				
前期末残高	900	530	530	1,430	46	1,384	
当期変動額							
当期純利益		60	60	60		60	
株主資本以外 の項目の当期 変動額(純額)					27	27	
当期変動額合計	-	60	60	60	27	88	
当期末残高	900	469	469	1,369	73	1,295	

記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

# 会社概要 / 役員 (平成23年3月31日現在)

設立年月日

昭和42年12月24日

資本金

9億円

発行済株式総数

900,000株

株主数

2名

立山黒部貫光株式会社  
富山地方鉄道株式会社

役員

代表取締役社長

常務取締役

総務部長

常務取締役

経営企画室長

常務取締役

経理部長

取締役

取締役

取締役

ホテル営業部長

取締役

監査役

監査役

中村憲史

佐伯博

堀内和夫

佐川栄

桑名博勝

村井宏光

永崎泰雄

野島浩二

松岡彰

川岸宏

平成23年6月28日開催の第44回定時株主総会および取締役会において役員が変更され、代表取締役社長に佐伯博、専務取締役に佐川栄、常務取締役に堀内和夫、永崎泰雄がそれぞれ就任しました。

## アルペンルートと会社のあゆみ

昭和27年 4月 1日	立山開発鉄道株式会社 (TKR) 設立 (資本金2,500万円)
29年 8月13日	鋼索線 (千寿ヶ原～美女平) 営業開始
30年 7月 1日	高原バス (美女平～弘法) 営業開始
31年10月 4日	弥陀ヶ原ホテル営業開始 (TKR)
35年 5月 8日	立山黒部有峰開発株式会社 (TKA) 設立
39年 6月20日	高原バス全線 (美女平～室堂) 営業開始
8月 1日	関電トンネルトロリーバス (扇沢～黒部ダム) 営業開始
11月 7日	TKA第34回取締役会で新会社 (TKK) 設立を決議
12月25日	立山黒部貫光株式会社 (TKK) 設立 (資本金4億円)
42年12月24日	立山貫光ターミナル株式会社 (TKT) 設立 (資本金3,000万円)
44年 5月 8日	室堂ターミナルビル建設工事着工
7月20日	黒部ケーブルカー (黒部湖～黒部平) 営業開始
12月 9日	立山トンネル貫通
45年 7月 1日	富山～信濃大町間を「立山黒部アルペンルート」と命名
7月25日	立山ロープウェイ (黒部平～大観峰) 営業開始
12月15日	一般自動車道 桂台～美女平間供用開始 (TKA)
46年 4月25日	立山トンネルバス (室堂～大観峰) 営業開始
6月 1日	立山黒部アルペンルート全線開業
47年 8月28日	室堂ターミナルビル全館完成
9月 1日	ホテル立山営業開始
54年10月 1日	TKKとTKAが合併
61年 4月11日	宇奈月国際ホテル新築工事着工
62年 9月21日	宇奈月国際ホテル営業開始
平成 2年10月 1日	立山黒部サービス株式会社 (TKS) 設立 (資本金1億円)
3年10月11日	弥陀ヶ原ホテル改築のため閉館
6年 7月12日	弥陀ヶ原ホテル改築営業開始
12年 4月 1日	弥陀ヶ原ホテルTKRから経営受託
17年10月 1日	TKKとTKRが合併 (存続会社 立山黒部貫光株式会社)
21年 4月 1日	宇奈月国際ホテルTKKから経営受託

# ホテル3館のご案内

## 立山黒部アルペンルート



### ホテル立山

〒930-1414 富山県中新川郡立山町芦峯寺室堂  
☎(076)465-3333 FAX(076)465-3336  
<http://www.alpen-route.co.jp/h-tateyama/>



### 弥陀ヶ原ホテル

〒930-1412 富山県中新川郡立山町芦峯寺弥陀ヶ原  
☎(076)442-2222 FAX(076)442-2242  
<http://www.alpen-route.co.jp/midagahara-h/>

## 宇 奈 月 温 泉



### 黒部峡谷宇奈月温泉 宇奈月国際ホテル

〒938-0282 富山県黒部市宇奈月温泉7-26  
☎(0765)62-1236 FAX(0765)62-1808  
<http://www.alpen-route.co.jp/unazukikokusaihotel/>

(編集・発行) 立山貫光ターミナル株式会社

〒930-8558 富山県富山市桜町1-1-36

☎(076)441-3331(代表) FAX(076)432-9056